

輪島市復興まちづくり計画策定に係る住民懇談会（大屋・西保地区）
結果概要

日 時 令和6年11月10日(日) 10:00～11:30

場 所 輪島消防署 2Fホール

出席者 住民側：71名

行政側：輪島市 坂口市長、中山副市長、小川教育長、中前総務部長、山本企画振興部長、池腰市民生活部長、刀祢健康福祉部長、永井産業部長、福尾建設部長、田川建設部技監、木下教育部長、上島まちづくり推進課長

事務局：田中復興推進課長、一本松主幹

① 市長挨拶

(坂口市長)

- 復興まちづくり計画について簡単に説明申し上げる。様々のご意見を頂き、今後開催を予定している2回の検討委員会を経て、12月末に復興まちづくり計画の案を示したい。
- 地震及び水害というかつて経験のない未曾有の大きな災害を受けた。大切な方や物も失ってしまい、皆さんも大変な思いをしている。全国の方から御支援を頂き、復旧も進んでいるが、一日も早くと思いながら進めているが、物理的制約もあり、なかなか時間がかかる。一方、全国のボランティアに支えて頂き、新たな出会いもある。嘆いてばかりでは復旧も前には進まず、課題を1つ1つ解決しながら、必ず震災前よりももっと豊かで魅力的な安心して住める輪島を、皆様と一緒に作っていきたい。

② 復興まちづくり計画の基本構想（案）等の説明

(市長より資料に沿って説明)

③ 意見交換・質疑応答

住 民：これまでの市の対応に御礼しつつ2点質問したい。①県道輪島浦上線について。水害によって再び通行止めになっているが、復旧の目処を伺いたい。

市 長：我々も本当に知りたいところであり、道路管理者の県に問い合わせているが、現在のところ見通しは立たないと言われている。早期の復旧を考えているようであるが、それだけ復旧が難しい道ということのようである。県に要請し、分かり次第連絡させていただく。

住 民：②大沢町に数回徒歩で見て回ったが、土石流で流されたり、家も床上浸水などが発生している。そのような状況で、いずれ家の木材が腐って、住めなくなることを懸念する。県のホームページでは、長期避難世帯に指定されると、補償金が多く出るような記載があった。珠洲市大谷でも長期避難世帯に指定されたと聞いているものの、あちらは道路も通っていて、住民も住んでいるが、一方で西保地区は道路が寸断され行けない状況であるにも関わらず、まだ長期避難世帯に指定されていない。指定されるとデメリットなどがあるのか。

中前総務部長：長期避難世帯については、珠洲市大沢地区も全域ではなく、土砂災害や道が通れなく、2年以上復旧にかかる場所の一部が対象になっている。長期避難世帯は、そこに行けない、危険が解消できない地区ということであり、デメリットとしては地区に行くことができないということかと思う。大沢地区については、県道の復旧の見通しが立っていないため、1年以上復旧に時間がかかるのかどうか、現状は県と長期避難世帯指定について調整中である。

住 民：宅田町は住民がバラバラな状況。どこも同じかもしれないが、これから会議や集会を開く必要があるが、集会所の再建というメニューはあるが、再建を待っていたら間に合わない。仮設住宅内にも集会所があるがそれは外部には貸さないとのことだが、一人でも仮設関係者がいれば利用可能とできるのではないかな。もっとオープンな形で使えるようになればよい。

上島まちづくり推進課長：仮設住宅の集会所を外部に貸してはいけないというルールはない。使いたいという相談をいただければ、他のコミュニティであっても貸すことはできる。

市 長：他の地区でも仮設住宅の集会所は使っているので、相談いただきたい。

住 民：西保地区は復興計画の議論以前に、復旧自体の目処がたっていない状況で、住民も住んでいない。簡易水道なども含めて今後復旧の計画をまずもって示してほしい。道路の復旧も未定であるとの話であったが、自分の土地さえまだ状況を見られていない人がまだ沢山いる。そういった状況であることを知って頂きたい。

市 長：西保地区だけでなく他の地区でも、道路が被災し、なかなか通れないということが原因となっている。道路が早く治らないと復旧が進まない。道路ができないと、電気も復旧できない、そうすると水も通らないという状況であり、何とか早く道路を復旧してもらえるように県に要請をし続けたい。その上で復旧・復興につながると考えている。西保地区には職員も歩いて確認に入っているが、道路が通らないと工事が進まないことはご理解頂きたい。

住 民：道路が直されないと他のインフラも直せないということか。何か対処方法はないのか。2年、3年と仮設住宅での暮らしが続くということか。

市 長：道路の復旧の計画に合わせて、電気や水道の計画を立てることになる。道路が通らないと何も出来ないというのはその通りである。道路復旧の見通しの情報共有と早期復旧を県に要望していく。

住 民：輪島浦上線の早期復旧をまずお願いしたい。道路が復旧されないと現状を見に行けないし、我々も歩いて見に行っているが、多少なりとも調査をしてほしい。また、大沢町にある簡易水道を復旧させるには林道を啓開していかないと直せないし、現状を見に行ってもいい。大沢町、上大沢町、赤崎町は水が通っていない。どの辺まで調査されたのか分からないが、ご考慮頂きたい。集落内の道路についても土石流で道が埋まっており、これが直らないことには公費解体も出来ないし、対応をお聞きしたい。

田川建設部技監：市長の話の通り、大沢地区、上大沢地区は県道・林道が大規模に崩落している状況である。住民の方の気持ちも十分わかるが、仮に道路が啓開されても、作

業員の安全性が担保できないと作業を進められない。これから冬季になるため、さらに難しい状況になっている。市としても集落を見に行っているが、まずは安全性を考えていかないと進むことが難しい。当然、県道は石川県の管轄になるため、県と相談し、何とか1日でも早い道路啓開ができないか相談したい。その後、電気の復旧と、順番に物事を考えていく必要があり、一足飛びに復旧することが極めて難しいことについて理解いただきたい。

住 民：佐比野林道については房田町側からしか登れないが、上山町に抜けようにも抜けられないし、いつになったら直して頂けるのか。また、除雪についての対応も含め対応をお聞きしたい。

田川建設部技監：できるところ、できる地区を優先させていただいている。一番最短で佐比野林道に上がるとなると、市道を通じて林道にあがることになるため、その作業を進めている。林道については県が啓開作業を行っているが、現状は下山町小池町あたりを通れるようになった。ただ、除雪ができるかと言えば、安全に除雪ができる道ではない。そこが、通行に対する安全性の確保という点で、現状できることで精いっぱいである。来年、天候の良いときに復旧と合わせて通行可能となる対応を県に依頼した。こういう状況であるため、今冬については積雪があれば通れないとお考えいただきたい。

市 長：ご不満はあろうかと思うが、安全な道が提供できるかどうかにかかっている。県と力を合わせてやっている。現状、地区への出入りは難しい状況であり、しばらくは仮設住宅に留まって頂きたい。

住 民：上山地区は道路が整備され住民も帰っている。雪も多い地区であるため、集落内の除雪も考慮いただきたい。

また、上山町地内を通る電線が冬になると停電しやすい。大沢・上大沢・小池にも影響を及ぼすため対応をお願いしたい。

市 長：電気は北電が管理するが、道路が安全でないと電気の開通及び管理ができないという立場である。歯がゆい部分があるが、まずは道路復旧を県に要請していききたいのでご理解を頂きたい。

住 民：電気の線は小町から降りてくるところに杉の木があってそこに電線が通っており、大雪の度に倒木して停電している。北電と県土木で話し合いしながら、杉の木を伐採してほしいと要望したが、市曰く、民地所有の木は伐採できないということであるが、是非ともお願いしたい

田川建設部技監：3年連続で12月に倒木が発生し、電線が切断されている。地震前には重要インフラ施設の伐採処理ということで市の予算をたてて順次進めているところである。個人の所有立ち木を切ることは、所有者の理解・了解が必要になる。地区の方々にも協力いただき、所有者の説得にあたっている。進んでいる地区は所有者の了承を得た地区である。市内全域でかなりの地区数があり、意見がとりまとまったところから進めており、地区の方にも協力いただきながら進めていきたい。

住 民：支障があるのは旧門前地区であり、持ち主は穴水の方であるようだ。登記が昔からされていなくて、末端まで把握できてなくて県土木でも困っているらしい。

田川建設部技監：場所を確認させていただき、所有者の方と話を進めていきたい。いずれにせよ、地区の方の協力をお願いしたい。

住 民：家に家財を取りに行った時に、（作業をしている）重機の少なさが気になる。赤崎側からだど早く行けそうな気がするが。罹災証明の判定は一度もらっているが、前のままの判定でいいのか、または交通遮断ということで全壊と同じ扱いになるのか。また、コンパクトシティという観点は嬉しい話だが、自分も4人子供がいる中で、輪島で子育てしたいと考える中、住まいの復興としての公営住宅の入居がどのくらいのスピード感で入れるのか見通しを教えてください。

上島まちづくり推進課長：西保地区については道路の状況が劣悪のため、長期避難世帯に準ずる扱いとして罹災証明の判定に関わらず仮設住宅に入居いただいている。災害公営住宅は順次建設していく予定であり、地区で災害公営住宅を望まれるようであれば、全員が入居できるような体制を整えたい。ただし、市内には土地が少ないため、できるかぎり早く、一番早くて来年着工になると思う。全員がいつまでに入居できるという確約は現状ではお伝えすることができない状況である。

池腰市民生活部長：罹災証明の判定は、建物被害を見に行き判定することが前提であり、行けるようになってから建物の調査をしていくことになるのでご理解を頂きたい。

上島まちづくり推進課長：災害公営住宅について、大沢町の方が個別に入居を希望されるのか、大沢町全体でまとまって入居するのか、そういうことを地域で話し合ってもらい、またご相談して欲しい。

住 民：2回目の開催に感謝する。仕事柄、輪島、町野、珠洲、門前を回っているが、輪島と珠洲の復興は難しいと思ってしまう。ここから復旧・復興していくためには常識の外で考える必要があると感じている。例えばライドシェアを試験的にといった話もあったが、試験的と言わずに、良いと思うことはどんどんやってほしい。政治決断をできるのは市長だけであり、市長の判断で早く進めてほしい。総理大臣が来ても、何も変わらない。

教育長へ質問だが、輪島の人口はかならず減っていく。移住者がくるかどうかかわからないが、外から移住してきたくなるような小中学校を考えていくことを考えてほしい。私も輪島に住むつもりではあるが、今日の西保地区の意見は断末魔のうめきにも聞こえる。

市 長：総理大臣が来ても変わらない、ということはない。既存のやり方で出来るかどうかを見てもらい、出来ないことを出来るようになるように、お願いしている。そういった実情を理解してもらい、検討してもらっている。輪島市という一自治体で復興はできない。市職員も17年前の震災当時の半分の数でやっている。全国から支援頂き市の職員として働いて頂いている、その感謝の気持ちは忘れてはいけない。

冒頭にあった、今しかできない政治的な判断というのは御指摘のとおり。国・県の力を借りていきながら、「もとよりもっと」、新しい輪島を作るという気持ちで、今しかできないことをやろうと考えている。実証実験はそんな長い期間ではなく、大きなことを一気にやるのではなく、一部地域できつとやって、結果を検証して市全体で対応するということである。

東北の自治体の首長も、輪島に何人も見舞いにこられて、彼ら首長も当初は復興出来るのかと思っていたが、復興できたという話を伺った。あきらめずやっていきたい。決して悲観せずがんばっていきましょう。

小川教育長：市長の話にあったように、復興に向けて、今までできなかったことを、常識を超えて、教育についても単なる再編ではなく、10年後、20年後の復興を支える人材を支える、輪島の未来を支える、こういった会議があれば参加する子どもたちを育てたい。創造的復興教育の元年としてスタートしたい。その見本として、能登町や穴水町では既にやっており、輪島市内でも進めたい。

今後、年間の新入生が60人を切るかどうかの問題が顕在化する中で、学校のあり方について検討委員会の議論を踏まえて市として方向性を示していきたい。

東京から移住した近所の家族の話聞いたが、子どもに震災で東京に帰りたいかと聞くと、それでも門前にいたい、門前のみんなが声をかけてくれて、一生ここに居たいという話をしてくれた。そういった子どもたちを大事にして、心持を持った復興の担い手となる子どもたちを育てたい。数は少ないかもしれないが、そういった子どもたちもいるため、復旧・復興に関心をもった子どもたちを育てていきたい。

住 民：道路の復旧は目処が立たないという話であったが、西保地区の方は申し込みすれば仮設住宅はあたるという解釈であっているか。

上島まちづくり推進課長：地震に起因して募集した仮設住宅の方は全員入居されたと理解している。一方、水害に起因される被災者の場合は、仮設住宅を着手した状況であり、そこに入居いただくことになる。それまでは避難所や親族の方に身を寄せていただきたい。

住 民：自分の家が被災しなくても、西保地区では生活ができないが、そういう方はどういう扱いか。

上島まちづくり推進課長：申込みいただければ入居できると考えている。

住 民：仮設住宅がある程度狭いのは我慢するが、稲屋町で明らかに狭すぎる場所に押し込まれている方もいるので改善して欲しい。

上島まちづくり推進課長：稲屋町を例に挙げていただいたが、仮設住宅の面積は法律に定められており、差がつくようなことはない。一部屋の面積が決まっている。地区によって部屋の広さの違いはない。一方、応急仮設住宅は応急的な住まいであることから、面積については我慢いただくしかない状況である。

住 民：稲屋町は間取りが悪すぎて縦長でありテレビも置けないとかいう状況なのでご承知いただきたい。

上島まちづくり推進課長：承知した。

住 民：県道輪島浦上線はいずれ通れるようになると思うが、道路が通れるようになり次第、引き続き市道も復旧していただきたい。橋の上に流木があり、家に帰れない。そのため公費解体もできない。

市 長：県道に引き続き市道についても着手していきたい。

住 民：防災庁の設置を国が考えているが、ヨーロッパでは防災庁が当たり前になっているようだ。今回の輪島市の経験を活かして防災庁設置に向けてそのノウハウや問題点を要望して頂くと、全国的にも良いのではないか。

防災士の立場として、停電が毎年続いているが、斜面に杉やあすなろの木を植えることを禁じる、ということをご指導したり、地域で話あっていく必要があるのではないか。

市長：防災庁の設置については、国の検討の場で輪島市の取組を発表する機会が何度かあった。その中で、しっかりやるべきこと、求められていることなどを訴えていきたい。

雪の倒木について、既に植わってしまっている木については、電線や道路を守るために、所有者を確認しながら地区と連携して承諾得たところから伐採をする事業をはじめつつある。支障しそうなところの所有者には言っていきたい。

住民：斜面に木を植えないということが重要だと思う。地域としても考えていく必要がある。

大屋の体育館に避難しているが、トイレの数が少ない。室内のトイレは凝固剤を使う必要があり、それが嫌で外のトイレを使っている。寒くなる中で、外を使うと健康面で不安であるため、何とか対応をいただけないか。

木下教育部長：避難所の運営について、体育館のトイレの配管の詰まりの関係でご不便をおかけしている。冬季に向けて外のトイレは使いにくいという声は聴いており、設備の調査を経て改修の段取りをしている。

住民：最後に文化財についてお聞きしたい。家にも40脚くらいの御膳がある。旅館に聞いても使わないからいらないと言われた。文化財だと思うが、災害ゴミ扱いされている。どこかに集めておけないか相談してもダメと言われている。公費解体が進む際にはこういったものが邪魔になり、災害ゴミとして燃やされることについて何とかならないか。

市長：個人所有のものについては、各自賃貸のスペースなどを確保されている状況。行政では保管できるスペースがない中で、友人知人をお願いするなど対応を頂ければ。

住民：子供が小学校に通っており、そのクラス編成についてお尋ねしたい。息子の例で話させていただくが、発達障害のため少人数のクラスで和気あいあいとした環境で過ごした方がよいということで、鶴巣小学校に通っていた。そこでは先生方の対応がよく、困り感なく過ごせるようになり、学校が大好きで通っていた。その後震災に被災し、6年生まで一緒に生活するようになり、大変だけど頑張っていくことになり、子どももうまく適応できた。しかし今年度に入り1学期から学校縦割り制になって、河井・大屋小で1クラス、鳳至小・河原田小・三井小・鶴巣小で1クラスとなり、大規模校に小規模校が取り込まれている状況になってしまったために、転校生のような扱いになってしまい、本人が苦しくなって、また、嫌がらせを受けている。クラス分けでいじめがおこっている。大規模小学校に小規模小学校の子どもたちが混ざり、うまくいかない状況であり、昨年度のように学校を均等に分けていただけないか。いろいろな事情があると思うが、子どもが元気に育てるような環境をつくっていただきたい。

小川教育長：6校が1つの仮設小学校に入っているが、一つ一つの学校はまだ残っている状態ではある。全部を一緒にくたにして、ということはまだ出来ないという状況。色々な個別のご事情を抱えているお子さんについては特別なクラスを用意してまたやって

いるが、一般教室に入っているお子さんについては、こどものトラブルはいくつか起きており、それについては先生が個別に対応しているし、震災後は臨床心理士なども入ってサポートさせて頂いている。ご要望は担任または専門家にご相談していただきたい。

住 民：この懇談会のようなものを今後も地区の集会所などで、こういう制度があるよとか、細かい市民の意見を聞く機会を設けて頂けないか。

山本企画振興部長：さらに細かく住民懇談会を行うかはまた検討して頂くが、情報発信については、まずLINEを通じて発信したいが、LINEが使えない方もいるので、紙ベースのパンフレットを作っており、出来次第お配りしていきたい。

市 長：もっと会合を設けてほしいという話だった。これまでわじま未来トークやアンケートも行ったところであるし、さらに職員が地区に入ってということであり、それは1つの理想ではあるが、一方で災害の復旧に職員が不眠不休で対応した結果、通院を余儀なくされたり、また何十人も辞めている状況であり、なかなか全部フォローする体制までスケジュールを落とし込めていない。個別のテーマが決まってくれば対応していきたい。早く分かりやすい指針となる復興まちづくり計画を12月までに作りたい。100%皆さんの意見を聞くことは難しいが、アンケートなどを通じてできるだけ聞いて、希望をもてるような計画を作りたい。

住 民：忙しいことはわかるが、目安箱など意見を聞く機会を作ってもらいたい。

市 長：目安箱は置いてあり、いろいろな意見を聞いている。

住 民：マスコミに出るのは好きでないかもしれないが、市民の希望の光になってもらいたい。

市 長：マスコミが嫌いな訳ではなく、発信すべき時に発信しているつもりである。ご意見を聞きながらしっかりとやるつもりで、そこは信用してもらいたい。

以 上

